

オープンソースM

第 30 回 日本エム・テクノロジー学会大会(MTA2003)
シンポジウム 「Mのゆくえ」

沢田 潔 名古屋第二赤十字病院 医療情報部

〒466-8650 名古屋市昭和区妙見町 2-9

TEL:052-832-1121(内線 10111) FAX:052-832-1130

e-mail : sawa@nagoya2.jrc.or.jp

1. はじめに

いわゆる GPL(Gnu Public License)に基づいた、3つのオープンソースMを紹介する。標準 ANSI/ISO-M 言語であり、MDC-1990 or 1992 準拠である。主に Linux(x86)環境をターゲットとして動作可能である(Windows でも CygWin 上で動作可)。ソース、バイナリ、ドキュメント(英文)などはインターネットから入手可能である。

2. GT.M

<http://www.sanchez-gtm.com/>

<http://sourceforge.net/projects/sanchez-gtm>

1980年代に、Greystone Technology Corp によって開発・販売されていた GT.M プロダクトを 1998年に Sanchez グループが買収。ライセンスは GPL。GT.M-x86-Linux と GT.M-x86-Linux.src にて配布。AdminOpsGuide や ProgGuide などのドキュメント(英文)が充実している。最新版は V4.3-FT18(2003/04/01)。3つの中では実績・実力とも一番であろう。

3. MUMPS V1

<http://www.mumps.org/>

<https://sourceforge.net/projects/mumps/>

ライセンスは GPL。FreeBSD 版バイナリと Linux 版バイナリで配布。最新版は 1.40(2002/12/26)

4. FreeM

<http://www.freem.net/>

it's open-source and free!! 最新版は Versin0.8.5(2003/05/20)。Super Small Binary (about 250K)。M 言語ソースの中に HTML 文をそのまま記述でき Web アプリ開発では面白そう。ToDo には SQL interface の記載があり今後の開発動向に期待したい。

5. 日本語(JIS)処理

3つのオープンソースMすべて2バイト文字は、内部 M-DB や外部デバイスに対して入出力は可能だが、文字列操作関数に関していわゆる2バイト-1文字処理には対応していない(\$ASCII,\$JUSTFY,\$LENGTH,など)。かつてDTMなどでJIS化以降期に流行った外部代替ユーザ定義関数ならば可能(\$\$ASCII^%j,\$\$JUSTFY^%j,\$\$LENGTH^%j,など)

6. まとめ

高価な製品Mプロダクトに対し速度や実装機能の面では見劣りすると思われるが、フリー(GPL)でユーザ数やジョブ数の制限の無い点は魅力的である。

特に、既存の M-DB や M ルーチンを活用しつつ Web アプリでサーバリソースが比較的小規模で、システム構築・運用に柔軟性や軽快さを求められるシステムならば十分に利用価値があると考えられる。

7. オープンソースMの国内コミュニティ

これらオープンソースMの情報交換のための国内コミュニティの設立が望まれる。まずは、Web サイトやメーリングリストによる継続的な情報交換から始めよう。